

まさに沖縄の色だ！

2024年3月15日、衝撃的なニュースに出会った。前日の3月14日に米国から流出美術品22点が米国から返還されたというニュースだ。

その中で、特に驚きを持って目にしたのは、2点の御後絵だ。鎌倉芳太郎が1920年代に撮影したガラス乾板の白黒写真により、確実に国王の肖像画に間違いのないであろうと思われる、第13代尚敬王御後絵と第18代尚育王御後絵だった。

その中でも、私は第18代尚育王御後絵に注目した。その色彩感覚にである。

緑青と朱という強い色同士の組み合わせ、そしてそれを包むのは金箔という濃厚な色遣いでありながら、その圧倒的な上品さに驚愕した。

公開された第18代尚育王御後絵を何度も目にするうちに、私の中にある一枚の絵が浮かんできた。安次嶺金正〈仏桑華〉だ。

この両者の色遣い、これこそ、まさに沖縄の色だ！



流出美術品として2024年3月14日に米国から返却された〈第18代尚育王御後絵〉



安次嶺金正〈仏桑華〉1966年→1989年？

(2024年4月8日 永津禎三)